

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873300735		
法人名	有限会社あおいとり		
事業所名	グループホームあおいとり (A棟・B棟共通)		
所在地	茨城県那珂市飯田2388-5		
自己評価作成日	令和 5年10月 3日	評価結果市町村受理日	令和 6年 1月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&amp;JkyosyoCd=0873300735-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon:true&amp;JkyosyoCd=0873300735-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和5年11月14日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・利用者様一人ひとりの能力に応じた役割を担っていただき、楽しく活気ある生活が出来るよう支援していきます。</p> <p>・家庭的な雰囲気の中、利用者様とコミュニケーションを多くとることで、居心地よく安心して生活ができるよう努めています。</p>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街の中で民家風の建物2棟が廊下で繋がれている、以前事業所で非常ベルの誤作動から非常ベルがなると大勢の地域住民が駆けつけてくれ心配の声をかけてくれるなど、事業所は地域にしっかり認知され地域に根差した存在となっている。</p> <p>管理者、職員はなんでも言い合える良い関係が出来ていて、ユニット会議や運動会等の行事においても職員から活発な意見やアイデアが出され、職員同士も和気あいあいとした雰囲気の中で利用者の支援に努めている。</p> <p>事業所では家庭的な雰囲気を大切にしながら、利用者の思いを優先に考え、利用者の思いに即しながら出来るだけ職員も一緒に行動しながら、利用者の気持ちに共感できるように努めている。</p>
--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の外部評価で指摘を受け、職員の意見を取り入れながら、利用者が地域とどう関わって行くかを踏まえた理念を作成し、見やすい場所に掲示し共有して、実践に繋げている。	利用者と職員でなんでも一緒に活動することで、共感する場面を多くし、家族のような関係づくりに努めている。趣味や嗜好については利用者の意向を尊重して、その人らしく暮らしていけるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ渦の中、地域の行事などは行われないうえ参加できないが、天気の良いときは散歩に行き、近隣の方と挨拶を交わすなどの交流を行っている。	散歩に出た時には地域住民と挨拶や会話を交わしている。高校生の職場体験や、納涼祭のボランティアとして小学生3名が参加してくれた。事業所で避難ベルの誤作動があった時には地域住民が駆けつけ心配の声をかけてくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験や夏休みのボランティアを通して、認知症の人の理解や支援方法を伝えている。また、グループホームでの暮らしの様子が分かるように、玄関に写真を飾っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、地域の自治会長、民生委員、利用者家族代表、市介護長寿課職員、地域包括支援センター職員を招き運営推進会議を開催し、サービス情報などを報告し、意見交換しながらサービスの向上に活かしている。	家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長等が参加して開催している。運営推進会議後、身体拘束適正化委員会を開催している。委員からは面会の状況や避難訓練の様子などを質問されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、電話や面会により連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険更新申請に訪問し、入居状況を伝えたり、疑問に思っていることを聞いたり、相談している。運営推進会議で常に情報交換しており、良い関係づくりが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束における弊害について理解しているため、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年に2回内部研修会で身体拘束について学ぶ機会を設けている。	身体拘束排除のための指針を作成し、運営推進会議の後に委員会を開催している。事業所内の身体拘束についての研修を通して、職員は身体拘束の弊害について共通理解している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について定期的に学ぶ機会を設けている。また、職員同士は不適切なケアが行われていないかの注意を払い、日頃から虐待を防止出来るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修で成年後見制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約・改定などの際は、利用者や家族の思いを尊重し、不安や疑問点を尋ねるようにしている。また、十分な説明を行い、理解や納得を図るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際や電話などで話を聞き、意見や要望があったときは、家族の意向に添えるよう、その都度話し合い、運営に反映させている。	家族等からは電話などで意見や要望を聞いている。意見や苦情が出た際の解決に向けた手順がある。現在のところ特に意見等が出ることはなく日ごろのケアに関する感謝の声がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見や提案が出しやすいような環境作りに努めている。また、職員が意見を出しやすいよう職員専用のポストを設けて運営に反映させている。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員会議時や面接時に意見等を聞いている。行事に関するアイデアや意見が活発に出ており実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員と個別面談を行うことで、職員の要望や悩みなどを把握し、向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に見合った研修に参加できる機会を設けて、働きながらトレーニング出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際などに同業者と交流し、サービスの質を向上させるような取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人からの聞き取りを行い、常に利用者の言葉に耳を傾け、不安を取り除き、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から家族の困りごとや不安などを把握し入所後も家族の要望などに耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居にあたり、面談などで本人と家族が必要とする支援を見極め、様々なサービス利用ができるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人と同じ目線になり、お互いに尊重しながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時にはゆっくり話せるような環境を作り、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう、手紙のやり取りをしたり、友人が面会に来られたりしている。本人が大切にしてきた思い出や場所などの話を聞き、関係が途切れないよう支援に努めている。	フェイスシートを作成している。面会は自由にできているが、通院以外の外出は現在控えている。電話や年賀状のやり取りが継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように席を配置し、職員があいだに入り、レクリエーションなどを通して利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者の家族から、現在も施設で使う物の提供がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを確認しながら、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。表現が困難な場合は家族からの意見をもとに本人本位になるよう検討をしている。	利用者の仕草など、発するサインを見逃さないようにしている。日々の変化を記録に残し、連絡帳で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・前入所施設(病院)の職員からの聞き取りや、サマリーなどから生活歴などやこれまでのサービス利用経過の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化を観察し、現状の把握に努め、職員同士で情報を共有しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向や要望、職員の意見をもとに話し合いを行い、利用者がより良く暮らせるための介護計画を作成している。	毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議を行って、半年に一度見直しを行っている。変化が見られればその都度話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに気づきや工夫・発言などを細かく記入し、職員間で共有することにより、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに生まれるニーズに対し、新しいことは本人や家族に相談しながら、可能な限り柔軟に支援できるように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが利用したい地域資源を把握しているが、コロナ感染症予防のために出来ない事が多かったが、9月に久しぶりの外出を実施できた。今後も様々な地域資源を利用し、利用者が安全で豊かな暮らしが出来るように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医と協力しながら、緊急時の対応も適切に支援されている。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。通院の付き添いは状況に応じてだが、家族等が付き添う場合には状態がわかるメモを渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者体調の変化はその都度看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報を提供し、安心して入院出来るように努めている。面会に行った際には医療機関との情報交換や相談を行い、退院時にも医療機関と連携を取りながら、退院時の支援に向けての相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期の支援について説明を行い、本人や家族の意向を確認し、書面で保管している。終末期に状態の変化があった場合は、主治医からの説明もあり、その都度話し合いを行っている。	重度化や看取りに関する内容を契約時に説明し、同意を得ている。看護師がいることから24時間オンコール体制も取れるため、最近看取り加算を取ることにした。今後職員の研修等を進めていく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について学べる機会を設けて、職員は応急手当や初期対応が見についている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、昼・夜間想定避難訓練を行っている。	消防署立ち合いの下総合訓練と夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後に反省会を行い課題を導き出すまでには至っていない。災害に備えて備蓄品を管理している。	避難訓練後は反省会を行い反省と課題を記録に残し次回の訓練に生かすことを期待する。地域住民にも避難訓練に参加して貰えるよう呼びかけを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、ゆっくりと分かりやすい言葉かけをしている。排泄介助時や更衣時などは常にプライバシーを損ねないよう配慮している。	利用者に対しては誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報や肖像権に関する同意書がある。職員は年1回接遇に関する研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表現できるような雰囲気作りや声かけにより、小さなことでも自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや意見を尊重し、無理強いすることなく、その人にあった一日を過ごせる様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自分の好みの服を選んでいただき、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいと話した献立をできる範囲で提供している。盛り付けるお皿にも気を配り、楽しみながら食事を摂れるように支援している。	調理担当部署に食べたいものを連絡すると希望するものを入れてくれる。敬老会には豪華なお弁当を手作りしたり、誕生会には赤飯を炊いてお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、栄養補助剤を利用する場合もある。一人ひとりの状態に応じて食事形態を変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアが終わるまで見守り、口腔内を清潔に保つことができている。自分のできない利用者には職員が口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように促がしている。	出来るだけトイレでの排泄を基本にしている。排泄の声掛けのタイミングが合っか、日常的な体操の効果か、失敗が無くなり布パンツで過ごすことが出来るようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヤクルトを提供し、散歩やラジオ体操などで体を動かし、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調により変わる場合もあるが、最低でも3日に1回入浴できるように支援している。	入浴は基本週2回は入れるよう支援している。入浴剤を使用したり、季節にはゆず湯などを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に休息したり安眠できるよう、リネン交換や室温調整にも気を配り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎に飲んでいる薬の種類や副作用が分かるファイルがあり、職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみ、レクレーションの飾り作りなど、一人ひとりに合わせた役割を担っていただきたき、活気ある生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染症予防のやめ、外出などが出来ていなかったが、9月に全員で外出する機会を設けた。外出できない時でも、散歩などをして気分転換ができるような支援をしている。	散歩に出かけ近隣住民と挨拶を交わしている。9月に久しぶりの全員での外出、外食を楽しんだ。道の駅などにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	年賀状を職員と一緒に買いに行き、自分で絵柄を選び購入した利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からきた手紙は本人に渡している。利用者も返事を書く時もある。利用者あてに電話がきた場合も本人に繋ぎ話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁飾りなどを取り入れたり、庭に咲いている花を飾ったりすることで季節感を採り入れている。園庭には椅子とテーブルを置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	フロアにはソファを置いてゆっくりできるようにしている。季節の花を飾っている。常時空調や換気等に配慮をしている。その季節に合った装飾を利用者と職員でつくって飾り付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、漫画棚があり、ゆっくり読めるスペースがある。ソファも置いてあるため、ソファから自席と自由に移動しながら思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使っていた家具や布団類があり、安心して生活できるようになっている。家族の写真や利用者が書いた書道や絵が飾られていて、居心地よく過ごせるようにしている。	広めのクローゼットが備えつけられているので、必要な物以外は収納出来る。日中から職員が順番に利用者の居室を回り、利用者が温かい布団で寝られるよう布団乾燥機で温めていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには分かりやすく表示をつけ、廊下には歩行の妨げになる物を置かないようにして、安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホームあおいとり

作成日 令和 6年 1月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練後に反省会を行い課題を導き出すまでには至っていない	非難訓練後は反省会を行い、反省と課題を記録に残し次回の訓練に生かせるようにする	非難訓練実施記録を、反省や課題が記入できるように変更し次回の訓練に生かせるようにする	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。